

聖 峰

校訓
強く 正しく 美しく

加賀市立錦城中学校学校だより
令和6年4月号 文責 校長 山下 悟

～校長あいさつ～

この四月より、加賀市立片山津中学校より赴任してきた山下悟です。錦城中学校勤務は今回で三回目となります。残りの教師生活の締めくくりに錦城中学校に勤務できること、とても感謝しております。全力を尽くしてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【学校教育目標】

「お互いの個性を尊重し、心身ともに力強く成長することで、持続可能な社会の作り手として自ら課題解決に取り組み、創造的に未来を生きることができる生徒を育成する」

【目指す生徒】

- 将来の夢や希望を持ち、自主的にその実現のために努力できる生徒(挑戦)・・・【強く】
- 自ら考え、学び、自他の良さに気づく生徒(創造)・・・【正しく】
- お互いに認め合い、助け合う生徒(協働)・・・【正しく】
- 自らの考え・主張を自分の言葉で伝えられる生徒(発信)・・・【美しく】

【目指す教師】

- 学び手は常に正しいという視点を持った教師
- 誰もから信頼される教師
- ドグマにとらわれず、学びを進める教師
- 夢を語り、夢を持たせる、夢先案内人たる教師



【目指す学校】

- 生徒の学習活動、日頃の成果を発揮する場と機会を意図的に創り出し、自己達成感、成就感を味わわせる
- 学校教育活動等のあらゆる場面において自主的、主体的、能動的で創造性にあふれた活動を引き出す
- PBS（ポジティブな行動支援）を根拠とした生徒指導、授業改善と支援体制を通して、生徒、保護者、教職員共々のQOLの向上に努める

BE THE PLAYER ～夢の実現～

『生徒の主体性の伸張』 『自己肯定感の醸成』

『学校教育目標を具現化するために大切にしたいこと』

- ◎「総合的な学習の時間の充実」
- ◎「学び方の学び方」
- ◎「応用行動分析学に基づいた PBS (SWPBS) の実践」

総合的な学習の時間の充実は、探究的な見方・考え方を働かせ、課題を設定し、それを総合的な学習 (STEAM 等) を通して目的や根拠を明らかにしながら課題を解決し、自己の生き方を考え、持続可能な社会の創り手として自ら課題解決に取り組み、創造的に未来を生きることができる生徒を育成するため (生徒の主体性の伸長) には、とても重要であると考えています。

また、加賀市学校教育ビジョンが目指す *BE THE PLAYER* では『個別最適な学び、協働的な学び』を通して、公教育の最大の使命である「誰一人取り残さない、置き去りにしない教育」を進めています。その中のひとつ「自由進度学習」は、学習支援の一つであると考えています。これまでも学校教育 (一斉授業) で、なかなか学習内容の定着が思うように図れなかった生徒たちに、支援の方法として、支援員を配置・活用したり、少人数授業で習熟度別にクラスを編成したりなど、いろいろな学習支援方法を試みてきました。

「自由進度学習」は、新たな学習支援のいち方法であり、これを取り入れることで生徒たちに知識をではなくて、勉強のやり方。いわば「学び方の学び方」を習得させることができると考えています。『個別最適な学び、協働的な学び』は、今まで学校教育界ではテッパン中のテッパンであり、常識であった『学び方』を変え、多様な生徒たちの学び方を支え、一人ひとりに合った学び方で、一生涯学び続けられることができる「ヒト」を育てることを目標に展開されねばならないと思っています。

また、私たち教師は何気なく、ついつい指示・命令で生徒を動かしています。そこには生徒自身が自ら判断や強い意思で動いているのではありません。教師は情報や考えを示すだけで、何をすべきか、どのように行動するかは、生徒自身に行わせる。「ああしろ。こうしろ。」ではなく「私はこう思うけど、あなたは どう思いますか。」「さて、どれが正しいかは、あなたが判断してみたらいいよ。」というスタンス、いわゆるファシリテートしていくことが、今の私たち教師に求められていると思っています。あくまでも生徒たちが前に歩み出し、例え途中道に迷っているときでも「伴走者」として寄り添い続けていくべきだと思っています。PBS (SWPBS) がその役目を果たします。

PBS (ポジティブな行動支援) の実践は、教職員全員の共通理解と共通実践が大切になってきます。趣旨を理解して、「昔からしていること…」と捉えるのではなく、応用行動分析学という科学的理論を根拠に執り行われるものです。複数の教師の目で生徒を「色眼鏡」をかけることなく見抜いてほしいと思います。より多くの目で捉えることで、生徒が持つ内なる善に気づき、それを引き出してください。授業の中だけではない、素のままの生徒を見抜き、良さを感じ取り、温かい言葉で伝える。これが『愛語』であると思います。まさに「愛語よく廻天の力ある・・・。」です。

ビデオを見てもらいましたが、今後予定している研修の機会には積極的に参加し、深い理解に努めてください。さらに、これらの共通理解と共通実践は、授業での基礎・基本の定着、学習内容の理解につながると信じています。教職員の皆さんは、授業で SWPBS を実践され、それを普通の授業で生かしてくれることで、学力の保障、向上につながるのです。全教職員が信じて行う。これが大切です。

皆さんは、自身のフィロソフィー、多様な考えや価値観をもって生徒に接してください。私たちが中学校で預かっている生徒たちが、これから放たれていく社会は、マジョリティだけが主導権を持つ社会ではなく、マイノリティーをも尊重し、多種多様なものの見方を認めていかねばなりません。いつまでも固定観念や無意識の偏見 (アンコンシャスバイアス) に囚われてはいけません。年度のはじめに当たって、教職員全体で確認しておきたいことを述べました。どうかよろしく願います。

令和6年度加賀市立錦城中学校学校教育ブランドデザイン

「学校教育目標」

お互いの個性を尊重し、心身共に力強く成長することで、持続可能な社会の創り手として自ら課題解決に取り組み、創造的に未来を生きることができる生徒を育成する。

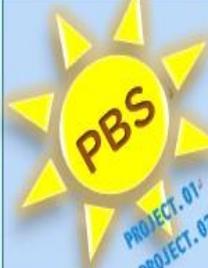
- ☆将来の夢や希望を持ち、自主的にその実現のために努力できる生徒（挑戦）
- ☆自ら考え、学び、自他の良さに気付く生徒（創造）
- ☆お互いに認め合い、助け合う生徒（協働）
- ☆自らの考え・主張を自分の言葉で伝えられる生徒（発信）

- ☆学び手は常に正しいという視点を持った教師
- ☆誰からも信頼される教師
- ☆ドグマにとらわれず、学びを進める教師
- ☆夢を語り、夢を持たせる、夢先案内人たる教師



夢の実現を支える3つの要素

☆3つの要素を基に、様々な教育活動の機会を通じて、夢の実現を可能にするための活動を行います。



PBS
PROJECT.01
PROJECT.02

PBS（プロジェクト型学習）による夢の実現は、承認や賞賛を通して生徒の望ましい行動を引き出すものである。効果としては望ましい行動を増やすことで、望ましくない行動を減らすことができる。更に生徒の自己肯定感や、やる気、意欲、モチベーションを高めることができる。教職員はこの効果を認識、共有することで、同じ目標で生徒と関わる事が可能となり、より一貫性のある連携や、協働を図ることが出来る。このように生活環境・学習環境を整え、その効果が得られることで、学校の全体的に心理的安全性が保障されている学び舎となり得る。学校担任では気付かない生徒の良さや頑張りを、他の教職員も見抜いて褒める機会を増やす。より多くの目で見えることで、より多くの生徒の良さに気付く。声掛けの場面を作る。教室はあくまでも授業者でありたい。私たち教員は、インストラクションの強制力である「学び手は常に正しい」という視点に立って教材研究及び授業を行い、生徒がつまぎている姿や学びの姿を理解し、必要な方を導くように努める。（個人攻撃の罰に陥らない。）また、PBSは、生活規律やルールなど学校生活全般での生徒の望ましい行動を引き出すものであると同時に、学習においてもその効果を上げ得る最良の方策であるという認識を共有し、全教職員が信じて、方向性を同じくして取り組んでいく。



STEAM
PROJECT.01
PROJECT.02

個別最適な学びと協働的な学びを基に、これからの生徒たちが Society 5.0 以降の社会において汎用的な資力・能力を構築し、新たな価値を創出していくために STEAM 教育は有効であると考える。「地域活性化」を実現するために ICT 機器やプログラミングなどの活用を通して、総合的な学習の時間や増えた資力、能力を生かして、各教科においても教科横断的に STEAM 教育にチャレンジして行く。なお、各教科で STEAM 教育を進めるにあたっての視点は、

- ①2つ以上の STEAM 領域が含まれた学習内容であること。
- ②問題解決的な学習に取り組みること。
- ③社会の問題解決を学習内容に取り入れること。
- ④机上の空論で終わるのではなく、アウトプット（プレゼン等）まで行うこと。

とし、この4つを含めた実践を各教科での STEAM 教育実践と捉え取組を進める。



PLANS
PROJECT.03
PROJECT.04

PLANS では、自分の将来を考えた上で何が大切かを明確に捉え、なりたい自分、将来の夢、目標等を計えたり達成したりするための技術を身に付けていく。目標を達成する為の技術があることや、結果の目標ではなく、行動の目標を立てることの重要性を、本校で採用している生活ノートを活用して身に付けていく。日々の学習について、計画的に取り組み習慣を身に付けて、将来的に社会で生きていく上で必要なプランニング能力や、スケジュールリング能力の習得を目指している。さらに、総合的な学習の時間において、自分の将来を設計し、Society 5.0 の社会をたくましく生き抜き、社会の存続に責任を有する主権者として、自己の個性や能力を生かして活躍する自立した人間として主体的に社会参画していくことが求められている。そのためにも、CSとしての連携を図りながら、指導と協働して計画的に課題解決していくためのコミュニケーション能力も身に付け、計画的にキャリア形成を図っていく。



PROJECT X

注 ※1 インストラクションの強制力・・・インストラクションとは、行動科学に基づき、何らかの行動を引き出すための仕掛けのことである。うまく行動を引き出すために17のルールが決められており、それは、教える内容（何を教えるか）や教え手（誰が教えるか）、学び手（誰に教えるか）によって変わることの無い汎用的なルールである。
「教師のためのルールブック インストラクショナルデザイン」 島宗 理 著 より